令和２年８月２４日(月)

令和２年度２学期始業式

みなさん、こんにちは。校長です。また、声だけの登場になります。２学期の始業式の話をします。

コロナウィルスの感染拡大で、１学期は予定より早く終わり、前倒しで夏休みに入りました。１・２年生は学校にも登校できず、部活動もできない中、有意義な時間を過ごせたでしょうか。３年生は、学校の自習室を使って黙々と勉強する姿や、自分の進路について担任の先生と面談をする姿がありましたね。

さあ、いよいよ２学期。萌樹祭、そして体育大会の準備が本格的にスタートします。

その萌樹祭ですが、実は日程を変更して行うことになりました。コロナウィルスの感染拡大が収まっていないということで、延岡市が、８月末まで公共の屋内施設の利用はできないとの方針を出しました。そうすると、萌樹祭のある８月３１日に、文化センターが使えない。なんとか予定通りできないかとお願いしましたが、市の方針は変更できないとの回答でした。その後、施設の担当の方も、市の教育委員会の方も、延高の生徒のためになんとかしてあげたいという思いがあって、９月２日に日程を変更することで、文化センターの利用が可能になりました。

体育祭についても、感染症もあり、熱中症もあり、実施して大丈夫なのか、という議論がありましたが、体育科の先生方を中心に計画を再検討し、プログラムの変更や、保護者の方の観戦をご遠慮いただくなどして、なんとか実施の運びとなりました。

さまざまな人の思いや努力、支えがあって、萌樹祭、体育大会が実施できます。そのことに感謝しながら、必ず成功させましょう。そのためには、とにかく感染者を一人も出さないこと。マスクの着用を徹底するなど細心の注意を払いながら、準備を進めていきましょう。

さて、今日は、これまでの教師生活で出会った生徒の中で、忘れられない生徒の話をします。私が年を重ねて最近ますます思うことは、人間の立派さというのは、年齢とか職業とかに全く関係ない、ということです。たとえば高校生でも、自分なんかより、立派な考え、生き方をしている生徒に出会うことがあります。Ｆくんという生徒も、そんな生徒でした。

その生徒は、筋ジストロフィという難病に罹っている生徒でした。だんだん筋肉が萎縮し、筋力や運動機能が低下していく病気。１０代で車椅子の生活になる人が多く、昔は２０歳前後で亡くなるといわれた難病。今は医療技術の進歩で、もうすこし長く生きられるようにはなったようです。みなさんは、「宇宙兄弟」という漫画を知っていますか？南波六太という兄、日々人という弟が、宇宙飛行士になる夢をかなえていく物語ですが、その中に、二人に大きな影響を与えた「シャロン」という女性の天文学者が登場します。その人が、ALSという病気にかかります。筋萎縮、筋力低下の症状が、次第に進行していく。病気は異なりますが、それと似た症状を引き起こす病気です。Ｆくんも、車椅子で、お母さんの介助を受けながら、学校生活を送っていました。

Ｆくんには夢がありました。理数系の教科が得意で、理系の大学に行って、エンジニア

になることです。体調がよくない日もありましたが、友達と一緒に楽しく学校生活を送りながら、ひたむきに勉強に打ち込んでいました。ところが、ある日、私は大変ショックな話を耳にしました。Ｆくんの担任が、「Ｆは、二十歳まで生きられるかどうかわかりません」とお母さんが話してくれた、と言うのです。

そのことをＦくんが知っていたかどうかはわかりませんが、その後もＦくんは勉強する姿勢を全くゆるめず、３年生になったとき、学年で１０番以内に入る成績を残すようになりました。当時のその学校では、九州大学の理学部や工学部に合格できるレベルにまで、学力が上がってきました。Ｆくんはまさに、命を燃やしながら頑張っていたと思います。

それで、最終的に、Ｆくんはどこの大学に入学したと思いますか。彼は、宮崎にある地元の大学に入学することにしました。自宅からお母さんの介助を受けながら行ける範囲にある大学は、その大学だけだったからです。

エンジニアになりたいという夢を持っていた彼が、どんな思いで、文系の大学であるその大学に入学したかはわかりません。そして、その後、Ｆくんがどんな大学生活を送り、どんな人生を歩んだのかは、自分が転勤したこともあり、今もわからないままです。かなりの年月が経過しているので、生きていてほしいと願ってはいますが、もしかしたら、彼はもう、生きていないのかもしれない。しかし、彼はおそらく、大学に入ってからも学ぶこと、努力することを止めなかっただろうし、それを楽しんだに違いない。そのことは間違いないと、私は思っています。

君たちなら、どうするでしょうか。自分が、二十歳まで生きられないかもしれないという状況にあったら、どんな毎日を送ると思いますか。実現しないかもしれない自分の夢のために、毎日、勉強を続けるでしょうか。

なぜＦくんは、あんなに頑張り続けたのだろう、頑張れたのだろうと、今でも考えることがあります。もしかしたら、彼は自分の運命を本当に知らなかっただけかもしれない、あるいは、お母さんやお父さんに、自分の努力する姿を見せて喜ばせたいという思いがあったかもしれない。それは彼にしか分からないことです。でも私が思うのは、彼にとっては、友と一緒に学ぶ日々、夢に向かって努力するそのプロセス、その時間こそが、かけがえのない大切なものだったのではないか。

当時、Ｆくんと一緒に学んだ生徒たち、Ｆくんに関わった先生たちは、彼の生きる姿勢から、さまざまなことを学びました。卒業式は、Ｆくんの友達がステージまで車椅子を運び、彼は卒業証書を受け取りました。みんなＦくんのことを慕っていたし、尊敬もしていました。Ｆくんには、今でも「命を燃やして生きていますか？」と問いかけられているような気がします。

君たちは今、自分の命を精一杯燃やしていますか。私などは残り少ないので、燃やしすぎると消えてしまいますが、君たちは、可能性のかたまりです。もしかしたら自分の夢がかなわないかもしれない、などと考えて足踏みするのではなく、先の見えない未来を恐れたりするのではなく、日々の歩みそのもの、夢をかなえようとするプロセスそのものを大切にし、楽しみ、存分に味わってほしい。

この２学期は、勉強だけでなく、部活動に、これから始まる萌樹祭、体育大会などの学校行事に、自分の命を燃やす君たちの姿を見たいと思っています。それを、楽しみにしています。